

## 国 語

## 言語活動を効果的に位置付けるための活用シート

教科の目標		言語活動の指導のポイント
小学校	国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の各領域では、日常生活に必要とされる記録、説明、報告、紹介、感想、討論などの言語活動を工夫する。</li> <li>◆ 言語活動を通して指導事項を指導するため、学習過程を明確にし、単元を貫く言語活動を位置付ける。</li> <li>◆ 「読むこと」では、読む目的を明確にして本や文章を選んだり、目的に応じて内容を的確に捉えたり、自分の考えをまとめて交流したりする学習活動を工夫する。</li> </ul>
中学校	国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の各領域では、社会生活に必要とされる発表、案内、報告、編集、鑑賞、批評などの言語活動を工夫する。</li> <li>◇ 言語活動を通して指導事項を指導するため、学習過程を明確にし、単元を貫く言語活動を位置付ける。</li> <li>◇ 「読むこと」では、読む目的を明確にして本や文章を選んだり、目的に応じて内容を的確に捉えたり、自分の考えをまとめて交流したりする学習活動を工夫する。</li> </ul>

## 言語活動としての要素

## 要素Ⅰ 自己の思考

- 学習の課題に対して自分の考えをもつ。
- 自分の考えをどのように表現するか考える。

○ 筆者の考えや登場人物の心情などの学習の課題に対する自分の考えを書く。

指導の工夫(例)

◇ 事実等を知識や経験と結び付けて解釈し、文章から抜き出した情景描写と読み取れる人物の心情に着目させ、自分の考えをワークシートに書かせる。  
◇ 根拠に基づく説明や情景の読みについて既習事項を想起させる。

## 要素Ⅱ 伝え合い

- 他者との伝え合いを通して、多様なものの見方・考え方に触れる。

○ それぞれの考えの共通点、相違点を整理して、発表したり、発表を聞いたりする。  
○ 友達の意見や考えを聞き、質疑応答や意見交換を行う。

指導の工夫(例)

◇ ペアや班などグループでの学習形態を定着させ、司会者を立て話し合い活動に取り組みさせる。  
◇ 友達の意見や考えを受け、色を変えてワークシートに書き加えさせる。  
◇ 他の人の考えとの違いを受け、互いに助言させる。

## 要素Ⅲ 思考のまとめ

- 他者との伝え合いを通して、再び自分の考えを深める。
- 自分の考えを自分の言葉で、他者によりよく表現する。

○ 自分の考えと他者の考えの違いをとらえ、それらの妥当性や信頼性を吟味したり、異なる視点から検討したりして振り返る。

指導の工夫(例)

◇ ワークシートに修正点や新たな工夫を書き加えさせる。  
◇ 様々な考えや意見について、気付いたことや分かったことを発表させる。

## 言語活動を支える基盤

## 基本的事項の理解

- 学習内容の基本的事項を理解する。
- 各教科等に必要用語や記号及び表現を理解する。

具体的な内容

○ 言葉の特徴やきまりに関する事項、文字に関する事項、語彙を理解する。  
○ 書くことや話すことの材料の選び方や文章全体の構成、記述の仕方など、書き手の考えを伝える工夫を理解する。  
○ 客観的、分析的な文章の読み方を理解する。

## 学習情報の獲得

- 体験などを含めた広い意味での「教材」から情報を得る。

具体的な内容

○ 教科書、ノート、資料等から既習事項を確認する。  
○ 教科書・資料等が表していることから必要な情報を読み取る。  
○ 新聞やインターネット、学校図書館等の施設などを活用して情報を得る。